



大 幼



令和5年度
園長だより No.4
令和5年7月20日

水遊びで暑い夏を乗り切ろう

本格的な夏シーズンを迎え子どもたちは水遊びを思いっきり楽しめるようになりました。プールでは、ワニやイルカになりきって水しぶきを上げ、園庭では、指絵の具を使って、手を虹色に染めて塗っては消し、塗っては消しを繰り返して遊んでいました。

遊びを通して、水に慣れ親しみ、水による涼感や量感を体験しながら遊びを深めてほしいなあと思いました。



「ずんだあん、おかわり」

13日の木曜日 年中さんは自分たちで育て、収穫した枝豆を大分市の食育サポートチームの方のご協力のもと、「ずんだあん」作りにチャレンジしました。

「すりつぶす活動は、子どもには難しいはず」とスタッフの方は言うのですが、日頃の色水遊びの経験を活かして器用にすりつぶすことができていました。また、「わさびみたい。」と言いながらも5回も6回もおかわりに行く子どもたちで行列が絶えませんでした。

自産自消する経験を通して、食に親しみ、食への興味・関心を高めていくことで、健康を考える原動力になることを願っています。



ここだけのひまわりフォト



ご存じの通りヒマワリは夏に映える黄色の花です。私が幼少期に育てたヒマワリは、私の背丈をあっという間に追い越し、見上げるほどの大輪だったように記憶しています。

たしか小学校低学年だった頃、発芽したての双葉を見つけた少年Sは、早く大きく育てようとビニールハウスを想起し、双葉をビニールで覆ってしまったのです。翌朝、双葉はしなしなになってしまいました。そんな苦い思い出のヒマワリ。最近では、品種改良ででしょうか花束にも用いられるかわいらしい品種も多く出回っています。

園門横のゆめいろ花壇には、大小さまざまなヒマワリが賑やかに咲き誇っています。いつも見ている人は気付いていると思いますが、同じ日に植えたのに、背丈がこんなに違うのはどうしてだろうと不思議に思います。一人ひとりの容姿や性格が違うようにヒマワリもこんなに違うのだなと考えるとあの歌を思い出します。一人一人みんな違うということをみんなで認め、多様感を大切にしたいものです。

